



1



2



3



4

1 あだ討ち物語として知られる「曾我兄弟」を迫力たっぷりに演じる。川東神楽は、舞手自身がせりふを述べる南部神楽に分類され、厳美の三輪流山谷神楽の流れをくむ

2 悲恋の物語を描いた「恋塚物語」の一場面。悲劇の結末が、観るものを物語へと引き込んでいく

3 地元の伝承を基にして創られた「夕霧物語」。霧山太郎と悪路王が故郷を守るため、朝廷軍に立ち向かう

4 川東神楽保存会（千葉正司会長）には、現在9人が所属する。夫婦の会員も多くなごやかな雰囲気運営されている

奥州遺産

— ときを越え 受け継がれるもの —

第113回

川東神楽

（市無形民俗文化財）

Ⅱ 衣川川東 Ⅱ

国指定史跡の長者ヶ原廃寺跡が静かに時を重ねる衣川・川東地区。歴史あるこの地で誕生した川東神楽は、人々と共に数々の物語を紡いできた。

川東神楽の始まりは大正14年にさかのぼる。地区の同好の士が集まり、衣川の川内神楽、平泉の戸川内神楽の指導を受け結成された。装束を入れた行李を背負いながら、岩手県南から宮城県北を股にかけて巡業したが、出兵や婿入りなどで中絶を余儀なくされる。昭和51年に再興を果たしたものの、指導者の逝去などもあり復活は困難を極めた。しかし、同郷の神楽団体の支援を受けながら、徐々に演目を習得。現在は劇神楽を中心に、精力的に活動を続けている。

3月8日のころもがわ神楽まつりでは、同郷の神楽団体と共に故・三好京三氏の創作神楽「夕日の衣川」を披露する。時代の波に揺られながらも、今という時を迎えた川東神楽は、これからも新たな物語を紡いでいく。

広告

● 広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197-64-1523)